解法

a_iに2，b_iに1を足すことで，実質的にa_iに1を足すという作業が可能なため行うことのできる操作は

1. $a_i = a_i + 1$ (操作A)
2. $a_i = a_i + 2$ (操作B)
3. $b_i = a_i + 1$ (操作C)

の3つである．操作Aより

$$\forall i \in 0, 1, \cdots, N-1,\ a_i \leq b_i \tag{1}$$

の場合には，$a_i < b_i$となるようなa_iについて操作Aを行えばaとbを一致させることができる．一方，

$$a_i > b_i$$

となるようなiが存在する場合には，(1)が成り立つようになるまで操作Cを行わなければならず，必要な操作Cの回数は

$$\mathrm{count_C} = \sum_{i \in C} (a_i - b_i),\ C = i | a_i - b_i > 0$$

であるが，操作Cを行う回数と同じ数だけ操作Bを行う必要がある．操作Bを行える回数は

$$\mathrm{count_B} = \sum_{i \in B} \lfloor \frac{b_i - a_i}{2} \rfloor, B = i | b_i - a_i > 0$$

であるので，

$$\mathrm{count_B} - \mathrm{count_C} \geq 0$$

となれば，数列aとbを一致させることが可能となる．